



飲み屋の前を通ったら「ノームさん、ノームさん！」と急に店長が飛び出してきて「この間すみませんでした。それであのお客さん達ねー。」と話し始めた。このまえ他の子供連れのお客さんがあまりうるさかったものだから、私も怒ってしまったのだ。狭い地下でヒステリックに叫びながら走！回る子供を止めもしないで大声で騒ぎながら飲んでいる無神経さこ苛立ったのだ。一緒に飲んでいた女性達に不愉快な思いをさせたと反省している。

まあそれはそうとして、店長の話はあれから他のお客さんにも怒られてみんな帰った後警察が来たというのだ。なんぞでー。」とらとあのお客さん達、車で帰る途中に交通事故をおこして、あの子供さんとお母さんがおぼろみで道路に放り出

されてしまって大変だったらしくんですよ。」それで警察が飲み屋に調べに来たのだというのだが、あれだけ飲んで騒いで車で帰ったなんてのは考えてもみなかったから、こっちはびっくりした。それで店の責任は大丈夫だったの。」と聞くとそれは大丈夫だったらしく、まあ、店も車で来ているとは思わなかったと言うしかないだろう。まあ、駅前だからそれは通つたのだからいいけれどもあぶない話であった。

前はどんな場末の安飲み屋でも、騒ぐとよ店の人にやんわりと怒られた。流しが来たとき以外に歌うなんてのはもってのほかで、何度かのやりとりで自然に大人のルールがわかってきたものだったが、今は店の人もバイトだし、その人達もだいたい自宅で熱情を飲む親父さんなんて見ていられないだろうから、なんでも理窟なし状態なのだろう。酒を飲むのも文化の一つだが、それさえも崩れようとしている、困ったものだ。

そう思いながら最近ハマっているちょっと古いんだがアメリカのコラムニストのボブグリーンのコラム集「チーズバーガー（文芸春秋）」を読んでいたら、最近の父親達は誰もローストビーフの切り分け方を知らないというのだ。アメリカの男たるもの家族やお客全員の注目の中で手際よくスマートに切り分けるのは当然のことであったものが、今そんなことができる男がいなくなったと危機感を持って嘆いているのだ。文化とはそういうものなのだと思ふ。文化ってのは文化包丁・文化鍋・文化どんぶり・文化人・文化勲章など国宝級なものまでいろいろあるけれども、私たちの行住坐臥すべてが文化なのだと思ふ。改めて貧乏人の酒の飲み方も立派な文化だと心を入れ替えて飲まなきゃいけないと思ふのであるが、文句はあるか。まあ、文句はあってもしょうがないのであるが、そんなこんなであれ、ゆわらず、千円札の1～2枚にぎりしめて両国界隈をさまよっています。

しかしまあ相変わらずノームは暇で、督促状の山や度重なる台風と闘いながらもママチャリは快調に雨の中も走り廻りました。この機会に長い間まっておいたホームページを何とかしようと思ふ。何しろあんまり長い間やっていなかったものだからソフトの使い方も忘れてしまい、データをどうやって公開するのかという方も忘れ、苦労しました。本当に自分でやっていたのかと自分で自分を疑うくらい見事な忘れぶりです。最初から勉強し直しです。それでもまあ、どうにかできあがり公開しました。今度は友人達と作っていた山の絵本や子供達の作文集、ママチャリ関連などを追加しています。ネットに繋がる方は覗いてみてください。

11月のまなざしの編集は20日におこないます。今月は人手が足りないため、少し前から少しずつやろうと思っています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJPN@aol.com